NX-C6000 / NX-C6500

VoIPサービス監視・セキュリティソリューション

概要

NX-C6000/NX-C6500は、セキュリティ上の脅威を検知するIDS機能と、問題発生時の解析に役立つフォレンジック機能を併せ持った製品です。問題解析の作業効率向上、およびサイレント故障やセキュリティ脅威の検出といったIP電話システムの保守上の課題を解決するために必要な機能を集約したシステムです。

特長と効果

ネットワークの「見える化」とセキュリティインシデント予兆の検出

・ネットワークを流れるすべてのSIP/H.323/Diameterメッセージを蓄積し、問題対応で検索、関連コールシーケンスを表示
・メッセージの流量をタイプ別にグラフ化
・DoSアタックやネットワーク故障などによる異常な流量変化を検知しアラームを出力
・異常SIPメッセージをリアルタイムで解析し、自動検出

IMS/VoIPネットワークにおける運用保守の効率化と設備投資の最適化

・SIP, H.323, Diameter等シグナリングプロトコルやRTPの品質チェック
・ネットワーク故障、異常の早期検知
・特定ユーザの通話録音
・オンデマンドで全体/個別のトラフィックをグラフやトップリストで表示可能

ハイパフォーマンス

・12,000メッセージ/秒 (約10億メッセージ/日)、バースト時にも34,000メッセージ/秒のキャプチャ性能を実現
・メッセージ蓄積量に制限なく、30TBのメッセージ検索も即座に結果表示

保守作業の効率化のCS向上

・各種メッセージの流量の変化やイリーガルなSIPメッセージの受信があった場合にアラームを出力
・異常検知時や障害解消時にコマンド発行機能を具備。アクションの自動化を実現
・お客様からの申告を受けて対応する従来のフローと異なり、保守者が迅速にアクションを取ることが可能

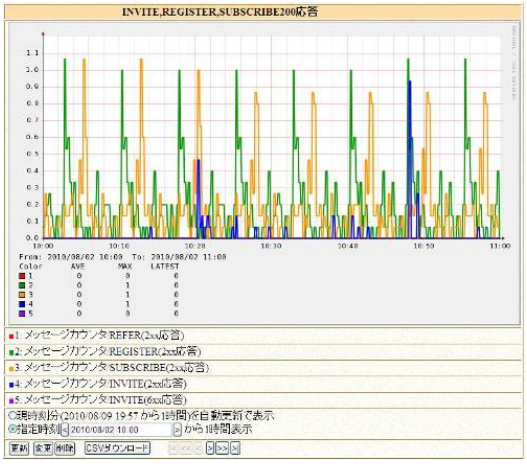
ラボ環境における検証の効率化

・端末のUNI仕様適合性自動確認
・PCAPファイルインポートによる異常メッセージの自動抽出
・サーバのバージョン差異チェック

画面イメージ例

トップリスト画面

問題調査の効率化に寄与する出現回数のトップリストです。IPアドレスや発着信番号などをキーとしたトップリストをGUI上で自由に作成することが可能です。また、一度出現した対象にラベルを付与することが出来、問題のある対象が再度出現した際にアラームを送出することも可能です。



統計グラフ画面

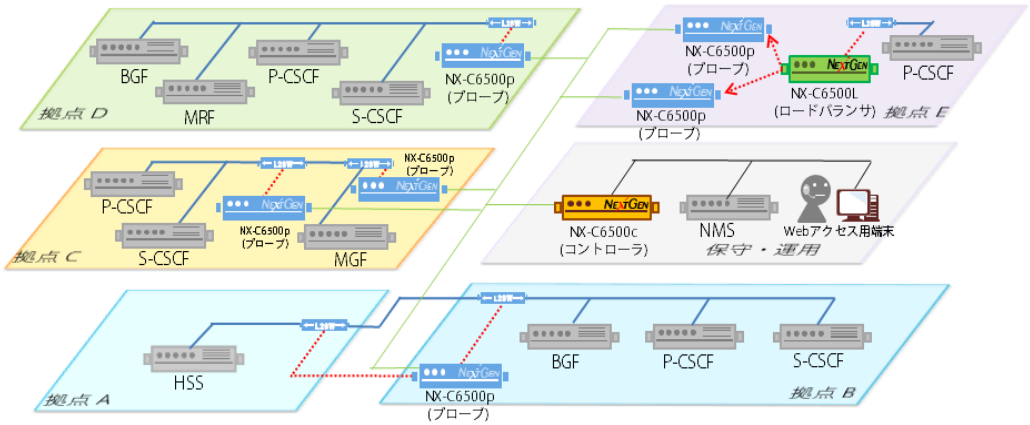
キャプチャされた情報を元に、メッセージ数などをグラフで表示します。お客様の運用状況に合わせ、SIPメッセージの メソッドに限らず、任意のヘッダやIPアドレスなど、幅広い「対象」を選択することが可能です。流量の変化を視覚的に 捉えることで、問題発見の早期化に繋がります。

機能詳細

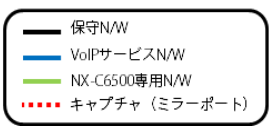
メッセージキャプチャ機能	・キャプチャしたSIP/H.323/Diameterメッセージを DBに蓄積 ・SBC製品との連携により、TLSによる暗号化通信の解析も可能 ・輻輳処理アルゴリズムにより、リアルタイム処理とDB書込処理タイミングを最適化
メッセージ検索機能	・蓄積されたメッセージをIPアドレスやメソッド、ヘッダパラメータなどの詳細な項目で検索 ・SIPメッセージ全体を特定文字列で検索する全文検索機能 ・長期間の調査を必要とする場合は、検索結果を独立して保存
統計情報グラフ表示機能	・収集したデータから統計情報を生成し、グラフを表示 ・ユーザ群や端末種別等特定のグラフをオンデマンドで作成可能
メッセージ数カウンタ/比較機能	・SIPメッセージ種別(メソッド/リクエスト/レスポンス)、ヘッダパラメータ、電話番号帯やユーザ単位でのSIPメッセージをカウント ・メッセージ流量の変化を絶対値や過去の流量との相対的な比較により検出
SIPメッセージリアルタイム解析機能	・SIPメッセージをキャプチャする際にリアルタイムにチェックし、問題のあるSIPメッセージを検出 ・シグネチャベースでのチェックおよびBNFでのチェック機能を提供
SNMPアラーム出力機能	・メッセージのカウントや解析結果に応じて、SNMPアラームを出力 ・同一アラームの連続送出を抑制するフィルタ機能を提供
Topリスト機能	・電話番号、IPアドレスや特定ヘッダをカウントし、時間単位でランキング表示 ・発着信数の多い対象を可視化、監視する対象がランキングに入った際はアラームで通知
コマンド発行機能	・メッセージのカウント、解析の結果に応じて、他のエンティティ(SIPサーバやL2SWなど)に対し、DoS攻撃や問題のあるSIPメッセージからシステムを防御
※音声品質監視機能	・RTPのジッタやパケットロスをチェック、音声品質監視を可能に ※2013年9月リリース予定。要キャプチャNICカード

NX-C6000/NX-C6500の導入構成

NX-C6000はスタンドアロンで動作し、主にネットワークボーダーのみ、あるいは300万コール/日程度のVoIPコア網までをカバーします。
NX-C6500は、キャプチャ監視と管理機能を分離独立させ、分散構成により大規模NWに対応するスケーラビリティを持ちます。
キャプチャやリアルタイム処理を行うNX-C6500pを複数拠点に配置、NX-C6500cにてネットワーク全体を対象としたメッセージの検索や集中管理を行うことで、モバイルキャリアのVoLTEネットワーク等、大規模ネットワークに対応します。



NX-C6500製品群 分散構成導入例



動作条件

NX-C6000	
OS	Red Hat Enterprise Linux 5.3, 5.8 (32bit)
CPU	インテル Xeon X5650 2.66GHz x2 以上
メモリ	4G～ (8GB以上を推奨)
HDD	呼量および保存日数に依存

NX-C6500	
OS	Red Hat Enterprise Linux 6.3 (64bit)
CPU	インテル Xeon E5-2660 2.20GHz x1 以上
メモリ	16GB以上
HDD	呼量および保存日数に依存

●このパンフレットの記載内容は2013年4月現在のものです。　●お断りなしにパンフレットの内容を変更することがありますのでご了承ください

NEXTGEN connect to the next generation
株式会社ネクストジェン
102-0083 東京都千代田区麹町3-3-4http://www.nextgen.co.jp/
TEL:03-3234-6855 (代表)　E-mail: sales@nextgen.co.jp

お問い合わせ